

陳情第8号

不登校の生徒が15の春に安心して進学できるように不登校専門の指導員を中学校に配置することの陳情書

(要旨)

去年の10月段階で、流山市の不登校（欠席30日以上）対象の児童生徒はおよそ300人と聞いています。コロナ禍とあいまって全国的にもその数は増えています。

流山の場合不登校対策としてのフレンドという公的機関がありその分校を新川小学校に作ったことは関係者にとって一歩前進ですが、数の急増には追いつきません。また、南北に長い流山はそれら公的機関に行くには児童生徒にとってはなかなか困難をかかえます。流山の各学校では不登校対策の支援教室を作り熱心に対応しています。また流山市独自のソーシャルワーカー等も配置されています。民間のフリースクールも増えており、不登校生徒に対する支援と理解は広まっています。

文科省は不登校の生徒がその能力個性に応じて、特に後期中等教育「高校大学専門学校等」では多様な選択ができ適切な教育環境が用意されれば、自立し、社会で活躍した生徒もたくさんいることを報告しています。

特に中学3年の「高校の進学先が無事に決まる」事が不登校の生徒の自信と安心につながると関係者は報告しています。

この時期に学力、体力、個性、家庭環境などについて個別指導を丁寧に行い、保護者とも、より十分に懇談し、「安心していける学校の選択」を進路先でも活躍できるよう援助することが大切です。

確かに進学問題はすべての流山の公立学校生徒にはあります。

しかし一般の生徒さんたちは進学に道筋がみえ、選択もおおかた常識に沿って判断できるのに比べ、不登校の生徒さんは進学の判断は重荷の場合もあります。

その手助けをする指導員があればよりその道筋が見えてくるでしょう。

柏市では中学校全学校に今年度より「不登校専門の指導員」を配置しました。流山でもぜひお願いするものです。

(項目)

流山の各中学でも、不登校の生徒の専門指導員を学校や保護者の実情を鑑み漸次配置してください。

令和5年2月6日

陳情者



流山市議会議長 森 亮二 様